

2019年5月19日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「永遠の命を受け継ぐ」

聖書：マルコによる福音書10:17～31

一人の金持ちがイエスに質問する。《永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか》と。ここで一つの言葉に注目したい。「受け継ぐ」という言葉。原語は、「クレーロノメオー」というギリシア語で、土地などを相続する、受け継ぐという意味。マタイ福音書5章5節に、「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ(クレーロノメオー)」とあり、土地を受け継ぐ、相続すると言う意味である。

ただ何故ここで、土地を受け継ぐ、相続するという言葉が使われているのか？「永遠の命を相続する、受け継ぐ」という言い方は何かおかしい感じがしないか？ どうせなら、「永遠の命を手に入れるには」とか、「永遠の命を得るには」とかのほうが分かりやすい。この「受け継ぐ」は合成語である。「クレーロ(クレーロス)=くじ」、「ノメオー(ノメー)=牧草地」である。「くじ」と「牧草地」、これが何故「受け継ぐ」なのか。それは旧約聖書にさかのぼらなければ解らない。民数記26章53節から《これらの人々にその名の数に従って、嗣業の土地を分配しなさい(嗣業というのは受け継ぐもの。土地のこと)。ただし、土地はくじによって分配され、父祖以来の諸部族の名に従って継がれねばならない。嗣業の土地は、人数の多い部族と少ない部族の間で、くじの定めるところに従って分配されねばならない。》イスラエルは、かつて土地を持たぬさすらいの民として、エジプトでは奴隷労働者として辛酸をなめさせられた。そこで新しい国を建てるにあたって、かつての権力を持つ者による収奪構造を繰り返さぬために、幾世代にもわたって部族共有の土地を維持して、そこで安心して農地を耕し、牧畜を続けていけるそのような法体系を作ったのであった。彼らにとって「嗣業、土地を受け継ぐ」とは、「永遠の命」そのものだったのである。

ところが人間とは罪深いもので、時代と共にそのような「人のものを奪ってはいけない」という権利のもとに作られたこの法体系も、王国体制への移行に伴って、権力の横暴が繰り返され、大国が小国を飲み込み、弱者のエキスを吸い取っていく。他人の土地を奪い、その土地で、貧しい者を安い賃金で雇い、自らはどこまでも肥え太っていく。まさに格差社会の構図がそこにある。イエスが生きた時代も、貧しい者が土地を奪われ、富む者が奪った土地を用いて、安い賃金で雇う、そんな時代であった。そんな時代の中で、イエスご自身が何を願い、何に怒り、何と闘おうとしていたのか、今朝の聖書にはそのことが示されているように思う。(神谷)